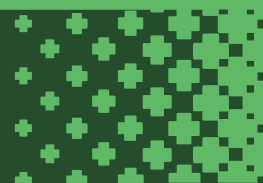




「医療的ケアが必要な重度障害者の生涯学習」理解推進パンフレット

～いつでも、どこでも、だれにでも、学ぶ喜びを！～



障害者の権利に関する条約

第24条（教育）

- 1 締約国は、教育についての障害者の権利を認める。締約国は、この権利を差別なしに、かつ、機会の均等を基礎として実現するため、障害者を包容するあらゆる段階の教育制度及び生涯学習を確保する。当該教育制度及び生涯学習は、次のことを目的とする。
 - (a) 人間の潜在能力並びに尊厳及び自己の価値についての意識を十分に発達させ、並びに人権、基本的自由及び人間の多様性の尊重を強化すること。
 - (b) 障害者が、その人格、才能及び創造力並びに精神的及び身体的な能力をその可能な最大限度まで発達させること。
 - (c) 障害者が自由な社会に効果的に参加することを可能とすること。
- (2, 3, 4, (略))
- 5 締約国は、障害者が、差別なしに、かつ、他の者との平等を基礎として、一般的な高等教育、職業訓練、成人教育及び生涯学習を享受することができることを確保する。このため、締約国は、合理的配慮が障害者に提供されることを確保する。

(平成26年1月20日批准)

教育基本法

(生涯学習の理念)

第3条 国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない。

(平成18年12月22日公布・施行)

特別支援教育の生涯学習化に向けて

平成29年4月7日

文部科学大臣 松野博一

私はかねてより、障害のある方々が、この日本の社会でどうしたら夢や希望を持って活躍していくことができるかを考えてきました。その中でも印象的だったのが、特別支援学校での重い知的障害と身体障害のある生徒とその保護者との出会いです。その生徒は高等部3年生で、春に学校を卒業する予定であり、保護者によれば、卒業後の学びや交流の場がなくなるのではないかと大きな不安を持っておいででした。他にも多くの保護者から同様の御意見を頂きました。

これまでの行政は、障害のある方々に対して、学校を卒業するまでは特別支援学校をはじめとする「学校教育施策」によって、学校を卒業してからは「福祉施策」や「労働施策」によって、それぞれ支援を行ってきました。しかし、これからは、障害のある方々が、学校卒業後も生涯を通じて教育や文化、スポーツなどの様々な機会に親しむことができるよう、教育施策とスポーツ施策、福祉施策、労働施策等を連動させながら支援していくことが重要です。私はこれを「特別支援教育の生涯学習化」と表現することとしました。(後略)

ご挨拶

いのちと向き合い、いのちを輝かせ、懸命に学ぶ「訪問カレッジ（総称）」の学生の姿には、人を動かす力があります。小さいいのちを灯し、時を刻んで、糸を一本一本紡ぎながら、「夢」を織り上げています。そこには、感動があります。

ネットワークのメンバーは、「もっと学びたい！」「学びは楽しい！」との声に動かされて、今日まで歩んできました。

そして、今、直面していることは、運営面での諸課題です。各団体によって事情は異なりますが、安定した運営資金と人材の確保が困難なことです。生涯学習のニーズは、年々高くなっていますので、その期待に応えて、医療的ケアの必要な方々の「訪問型の学びの場」を拡充するには、ステップアップが必要であると切実に感じています。

その方途は、何らかの形で法制度の確立です。そのためには、私たちの活動について知っていただく必要があると考え、本パンフレットを作成しました。

小さな力の集積が、大きな力になり、社会を動かす日の招来を心待ちにしています

2020年10月

飯野順子（重度障害者・生涯学習ネットワーク・
NPO 法人地域ケアさぼーと研究所 理事長・
社会福祉法人天童会 秋津療育園 理事長）

「重度障害者・生涯学習ネットワーク」設立趣旨書

平成29年12月25日

生きることは、学ぶこと。 学ぶことは、生きる喜び。 生涯にわたって、学ぶ続ける喜びを！

医療的ケアを必要とする障害の重い方の多くは、在宅生活を余儀なくされていますが、心豊かな生活の実現のために、「大学に行きたい！」「もっと勉強したい！」などの「学び」を希求しています。それは、存在を懸けた声にならない叫びです。

そのような方の生涯にわたり学び続けたいという夢や願いに応えるために、私たちは、「カレッジ」等の名称を冠した学びの機会と場を創ってきました。その取り組みは、かけがえのない人生のかけがえのない「時」を、学びたいことを学ぶ「時」とすることがモットーです。そして、そのことによって、生きがいと喜びがあり、生き生きと輝く地域生活を可能にすることです。

その取り組みを約5年間継続してきましたが、一つ一つの団体としてではなく、ネットワーク化して、力を合わせ、活動を拡充していくことが必要であると考えました。

「障害者の権利に関する条約（第24条）」では、「あらゆる段階における障害者を包容する教育制度及び生涯学習を確保する」と提唱しています。更に、文部科学大臣は、「障害のある方々がそれぞれのライフステージで夢と希望をもって生きていけるよう、生涯にわたる学習活動の充実を目指すために関係部局の連携を図ること」と発出しています。

そのような時代背景の変化に鑑み、この度、下記の団体による「重度障害者・生涯学習ネットワーク」を結成し、発足することにいたしました。（以下、略）

あっと きりんかん 訪問カレッジ @ 希林館

事業主体	NP0 法人地域ケアさぽーと研究所 理事長 飯野順子
連絡先	訪問カレッジ@希林館 〒187-0035 東京都小平市小川西町 4-34-2 学長：下川和洋 電話・FAX：042-403-3229 Email：ccsupport@jcom.home.ne.jp HP：http://mcare.life.coocan.jp/mae/
事業紹介	平成 24 年から始めた「訪問カレッジ@(あっと)希林館」は、医療的ケアや重い障害のために生活介護事業所などへの毎日の通所が困難な 18 歳以上の障害のある方の自宅等へ月 1 回～週 1 回程度、学習支援員を派遣して豊かな地域生活と生涯学習支援を目的にした事業です。 学校教育で言う「学級担任」に相当する「学習支援員」のほとんどは、特別支援学校を定年退職された方で、障害や病気に関する知識と学習支援のノウハウを持った方々です。 詳しい案内は、ホームページの「訪問・福祉サービス支援事業」をご覧ください。
活動の様子	■訪問による学習の様子  ドラムセット（iPhone のアプリ）で合奏 ■オンラインによる学習の様子  新型コロナウイルス感染症拡大期間の学び
	■訪問カレッジ文化フェスタ  年に 1 回、学生の作品展示や学びの発表・音楽鑑賞など行う文化祭を開催しています

みなさんからのメッセージ

学生の声

私は一昨年、肺炎になって気管切開をしました。それで声を失いました。絶望のどん底に落ちてしまいました。その時、元担任の先生から声をかけてもらって「訪問カレッジ@希林館」に入りました。

家庭でできる余暇の過ごし方を教えてください。また、身体のケアも同時に行ってくれます。さだまさしが大好きな私のためにギターを弾いて歌って下さり、その時間はウキウキします。iPad を使ったゲームや情報を色々勉強させてもらっています。普段は身体がきつくて辛いのですが、訪問カレッジの時間は楽しくて痛みを忘れて夢中になってしまいます。

私の命が続く限り入っています。これからも宜しくお願いします。

(学生 山本利恵さん)



ご家族の声

作品づくりでは、温かい、冷たい、重い、ふわふわ、ねばねばなど初めての感触もたくさんありました。作品が一つ仕上がるたび、満足そうな笑顔と、次への期待が表情でわかります。また、友だちや訪問看護師、ヘルパーさんに作品をほめられて、とても嬉しそうにしています。学習時の集中力とエネルギーには驚いています。本の読み聞かせでは、言葉の面白さや新しい「学び」もたくさんあり、授業のエンディングとしてゆったりとした時間を過ごし、創作の時間とはまた違った表情を見せてくれます。

今、息子にとって訪問カレッジは生活の一部となり、元気に授業をうけることが目標になりました。そして、新しいことへの興味、チャレンジは、「生きる力」となっています。限られた環境の中での授業展開は大変だろうな…と思いますが、これからも授業を楽しみにしていますので、よろしくお願いいたします。

(保護者 佐藤真弓さん)



学習支援員の声

障害のある方は、発語はなくても「ことばの世界」に生きていると思います。周りの人からの言葉かけをよく聞いています。それは生活年齢からくる言葉の積み重ねと考え、生活年齢を大切にしています。

ご家庭が協力的で、家族のあり方などを学ぶことも多く、やりがいにつながっています。「私自身の生涯学習」でもあります。

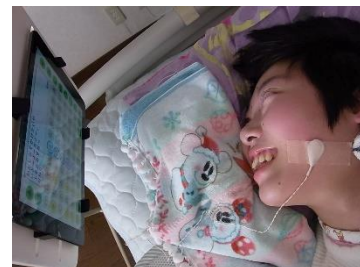
(学習支援員 石井恵子)

訪問大学おおきなき

事業主体	特定非営利活動法人 訪問大学おおきなき 理事長 相澤 純一
連絡先	おおきなき 〒146-0092 東京都大田区下丸子 4-18-12 メールアドレス) taiju06wa01@b07.itscom.net FAX: 03-3758-3391 HP) http://home.v07.itscom.net/ookinaki/
事業紹介	障がいや病気のために、通所施設等に毎日通うのが難しい方等のご自宅や施設を講師が訪問して、生涯学習を支援します。2014年に4年制の訪問大学を立ち上げ、2018年には卒業後も学びの継続を希望される方のために生涯学習コースを開講しました。 会員を広く募り、訪問大学は多くの方の会費や寄付によって運営しています。 自分の思いが伝わる喜びを感じながら、自分に合った方法で学ぶ機会を持ち続けてほしいと思っています。そして、自己実現に向かって進みながら、社会とのつながりを深めていってほしいと願っています。学校卒業後も学ぶ機会を持ち続けて地域や社会との接点を持ち、豊かな人間関係を築いて充実した時間を過ごしましょう。 詳しい案内は「おおきなき」ホームページの「訪問大学おおきなき」をご覧ください。
活動の様子	 ■第1回訪問大学おおきなき文化祭（2017年10月1日） ——文化祭は4年に1回を予定しています——  ■音楽療法の授業  ■ピエゾスイッチとワリバッシャーで キーボードを演奏する。  ■文字盤を使って、俳句を作る。

みなさんからのメッセージ

学生の声	・うた、たのしい。料理続けたい。英語もしたい。・電車で所沢です。（電車に乗りたい）
ご家族の声	・成人となり出会いが少なくなるばかりと思っていましたが、おおきなき仲間に入れていただき、息子の世界が一気に開けたように感じます。（2年生） ・初めての経験をいろいろさせていただいて、息子の笑顔や真剣な顔など、寝たきりの時とは違い、以前のような活気が出てきて、先生の来てくださる日をとても楽しみにしています。（生涯学習コース2年生） ・視線入力装置との最初の出会いは、特別支援学校在学中でした。その時は目を上手に動かせず画面の一部を往復するだけで、すぐに諦めてしまいました。画期的な最新機器も、この子には使えないのだと思い込んでしまっていたので、訪問大学で再び視線入力装置に出会った当初は、親としてあまり期待しないようにしておりました。しかし、先生の熱心なご指導のおかげで回を重ねていく度に目の動く範囲が広がり、今では自分の選んだ色で画面いっぱいに描けるようになりました。すぐに諦めてしまい長続きしないことも多かった子が、視線入力の授業では1時間以上集中して取り組めるようになり、その成長に驚いております。（生涯学習コース3年生） ・今までは、娘の気持ちは家族にしか分からないと思っていたのですが、諦めずに聞いてくださる先生方に答えている姿があり、感動しました。体調が不安なため、あまり外出していなかったのですが、トーキングエイドで、しっかりと切実に外出したいと伝えてきたことで、思い切って外出することができました。また、お化粧や着替えもしていなかったのですが、本当はしたかったのだと伝えてくれ、驚きました。21歳の女性の生活をさせようと反省しました。帝京大学の学生さんが来てくださったときも「友達♡友達♡」とずっとハイテンションでした。姉妹だけでなく同世代の人たちとの交流も必要なのだと感じました。（卒業生、2018年に旅立つ）
講師の声	・学生さんたちの「学びたい!」という気持ちのすばらしさと、保護者の方の「学ばせたい!」という気持ちのすばらしさを感じる。 ・「学び」を通じて学生さんの目は輝き、「生きる」ことの意味や「豊かさ」の意味を、講師の私の方が学生さんから学ばせてもらっている。 ・「彼らが紡ぎだすその一音一音から生命があふれでる。『ぼく、私はここにいるよ』とその息づかいが空気の中に、音の中に流れ伝わってくる。そして私はその想いを大事に大事に受けとり、私の音で消さないように全身全霊で丁寧に応えていく。『今ここで』互いに生（なま）の自分で交流するけれど、その中に過去の自分も未来の自分も含まれる。私は、その生命の交流にまた今日も元気をもらい、明日を生きていく。（音楽療法の講師）



ひまわり HomeCollege

事業主体	NP0 法人ひまわり ProjectTeam 代表理事 藤原千里
連絡先	NP0 法人ひまわり ProjectTeam 〒162-0066 東京都新宿区市谷台町 6-13-601 Email: himahaus@gmail.com HP: https://himawaript.wixsite.com/himawari2010
事業紹介	特別支援学校などを卒業後、障害や病気のために通所施設等の毎日の利用が難しい 18 歳以上の方のご自宅を講師が訪問し、生涯学習を支援します。卒業後も学ぶ機会を持ち続けて地域や社会との接点を持ち、豊かな人間関係を築き、充実した時間を過ごすことを目標にします。対象は、(1) 新宿区在住の 18 歳以上の方 (2) 身体に障害があり通所施設等の利用が難しい方 (3) 学習の機会を通して社会参加を希望する方で、講師は、特別支援学校や福祉施設等での勤務経験があり、障がいや病気に関する知識と理解がある方を派遣します。コーディネーターが希望の学習内容に応じて講師を選び、学習者、講師、コーディネーターの 3 名で相談の上、具体的なカリキュラムを組んで授業を進めます。
活動の様子	 受講のテーマはペルシャ文化  受講の前にウクレレの生演奏でリラックス！  ホットプレートで家族にナン作り  ペルシャの建築を見ます  ペルシャ絨毯に挑戦 練習編  こんなカラフルな羊毛を使います  竖琴の特別出張授業！  ときどき、和歌♪

みなさんからのメッセージ

ご家族の声	Q：在宅の生涯学習のあり方、または在宅の子どもたちの生活全般はどうあって欲しいですか？ A：家にいても、いろいろな経験をしたい。現時点では、多くの福祉サービスにおいて訪問学級卒業生ほど重度の利用者は想定されておらず、ほとんどの通所施設で「対応できない」と断られてしまいます。そうすると、医療的ケアが多く外出が困難な在宅療養者は、家族とわずかな医療・介護関係者とししか接点のない、単調な生活を余儀なくされます。せっかく体調はよくても刺激が少ない毎日です。訪問型の生涯学習は、そんな在宅のこどもたちにとって、貴重な社会経験の機会を提供してくれます。小学校から慣れ親しんだ「訪問学級」のスタイルは、利用者にとって無理がなく家族のストレスも少ない、とてもステキなシステムだと思います。在宅の生涯学習が、このような形でいつまでも継続されるといいなと思います。さらに、体調や利用者の意欲にあわせて、授業の選択肢が増えるとなおありがたいです。 Q：その中で行政にやって欲しいこと A：とぎれず、継続するために安定したシステムを作り上げて欲しい。 Q：ひまわり HomeCollege を一年やってみての感想。良かった点、改善して欲しい点、将来の課題など。 A：カレッジのある日は、娘はそわそわして先生の到着を心待ちにしておりました。本当にありがとうございました。カレッジの授業は、一年を通してひとつの大きなテーマがあるというのが高校までの訪問学級と違って良かったです。将来的には内容も講師の先生も、さらに選択肢が増えればいいなと思っております。一層カレッジっぽくなるかと。(短期集中講座とかスクーリングとか。)
学習支援員の声	カレッジに参加させていただくことで小さかった頃を知るF子さんと又ご一緒できるのは、とてもありがたいことです。お別れしてからの時間を変えることなく大切にお世話してこられたご家族にただただ感謝です。

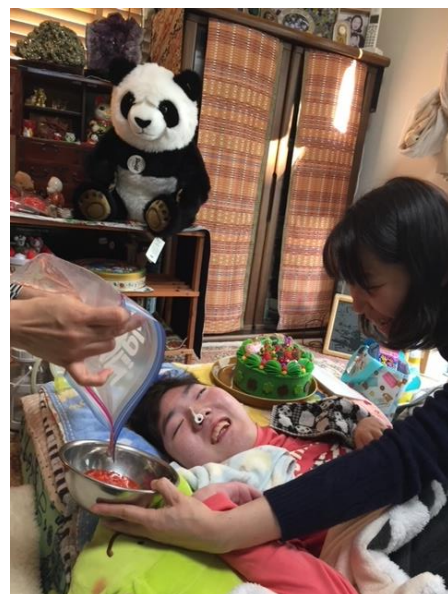
ほうもんじぎょう あい ぽ る と
訪問事業 i . porte

事業主体	NP0 法人あいけあ 理事長：岡安玲																																	
連絡先	住所：211-0036 川崎市中原区井田杉山町 3-1 Email：okayasu-66@icare-carepy.com HP：https://www.icare-carepy.com/ Facebook：https://www.facebook.com/momonpy/																																	
事業紹介	2017 年 4 月に、神奈川県立中原養護学校の訪問教育を卒業した方 3 名を対象に、モデルケースとして開始。同年 10 月に NP0 法人化し、事業を継承。 一人につき月 1 回、2 時間程度。教員ボランティアを中心に 2 名で訪問。 対象は、川崎市・横浜市在住、特別支援学校在籍時に訪問教育を受けていた人で、在宅生活となっている人（通所先がないか、長期で通所できなくなっている人）。2020 年 9 月現在で 5 名の方が利用されている。																																	
活動の様子	障害の重い人たちには、本人主体の生活を楽しみ、命を輝かせるような取組が必要です。学校時代のたくさんの経験を踏まえ、音楽や美術などの表現活動、運動プログラム、外出や人とかかわる活動など、「生涯療育」の視点で組み立てたプログラムを用意しています。 実施スケジュール（例） <table><tr><th>回数</th><th>日付</th><th>活動内容</th></tr><tr><td>1</td><td>4月22日(土)</td><td>オリエンテーション</td></tr><tr><td>2</td><td>5月13日(土)</td><td>ポッチャ・ダンス・母の日プレゼント</td></tr><tr><td>3</td><td>6月10日(土)</td><td>野菜スタンプの団扇作り</td></tr><tr><td>4</td><td>7月22日(土)</td><td>ワイン作り・踊るスピーカー</td></tr><tr><td>5</td><td>8月26日(土)</td><td>ワインのラベル作り</td></tr><tr><td>6</td><td>9月16日(土)</td><td>毛糸のタマネギ&紅茶染め・デンセンマン・ギター演奏</td></tr><tr><td>7</td><td>10月22日(日)</td><td>ポンポンのハロウィン飾り・よさこい踊り</td></tr><tr><td>8</td><td>11月18日(土)</td><td>フェルトボールのリース作り・サックス演奏・パラシュート</td></tr><tr><td>9</td><td>12月10日(日)</td><td>音楽・オカリナ姫</td></tr><tr><td>10</td><td>1月21日(日)</td><td>デンセンマン・ギター演奏</td></tr></table> 	回数	日付	活動内容	1	4月22日(土)	オリエンテーション	2	5月13日(土)	ポッチャ・ダンス・母の日プレゼント	3	6月10日(土)	野菜スタンプの団扇作り	4	7月22日(土)	ワイン作り・踊るスピーカー	5	8月26日(土)	ワインのラベル作り	6	9月16日(土)	毛糸のタマネギ&紅茶染め・デンセンマン・ギター演奏	7	10月22日(日)	ポンポンのハロウィン飾り・よさこい踊り	8	11月18日(土)	フェルトボールのリース作り・サックス演奏・パラシュート	9	12月10日(日)	音楽・オカリナ姫	10	1月21日(日)	デンセンマン・ギター演奏
回数	日付	活動内容																																
1	4月22日(土)	オリエンテーション																																
2	5月13日(土)	ポッチャ・ダンス・母の日プレゼント																																
3	6月10日(土)	野菜スタンプの団扇作り																																
4	7月22日(土)	ワイン作り・踊るスピーカー																																
5	8月26日(土)	ワインのラベル作り																																
6	9月16日(土)	毛糸のタマネギ&紅茶染め・デンセンマン・ギター演奏																																
7	10月22日(日)	ポンポンのハロウィン飾り・よさこい踊り																																
8	11月18日(土)	フェルトボールのリース作り・サックス演奏・パラシュート																																
9	12月10日(日)	音楽・オカリナ姫																																
10	1月21日(日)	デンセンマン・ギター演奏																																

みなさんからのメッセージ

スタッフの 声

在学中、訪問教育で学校に登校して教育を受けるよりも短い時間ながらも、「おもしろいね!」「これ楽しい!」「もっとやってみたい!」「知りたい!」と表情や身体の動きで目いっぱい表現し、それを受け取る保護者や教員がそれに応え、充実して楽しい時間をたくさん過ごした卒業生。“学校の時と同じように”“社会人になったからこそ、さらに”みんなの「やりたい!」気持ちを実現できる場がほしい!!卒業生、保護者、担任みんなの「あったらいいな!!」の思いから、あいけあの訪問事業 i.porte はスタートしました。i.porte ではメンバーさんの意欲と笑顔!そして時には生活介護事業所 i.care への通所!とメンバーさんの自宅での活動に留まることない活躍に、スタッフ一同胸を躍らせています!

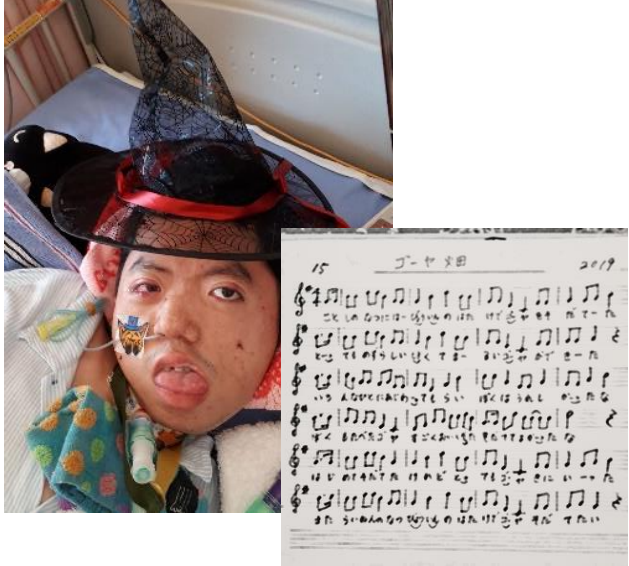


活動ボラン ティアの声

ご縁があって巡り合えた方々と、ただ長く繋がっていたいという思いが始まりです。もちろん、個人的なつながりも嬉しいですし、たまに連絡をとって遊びに行くことが当たり前が続くだけでも、幸せだなと思っています。ただ、学生時代に繰り返しや積み重ねが大切だと学んできた方々にとって、卒業後も同じように積み重ねられる環境が必要なのではと思うのです。それが、対個人だけではなく『色々な人と一緒に』ということになれば、より深い学びになります。相手によって変わる表出を見て、お互い、豊かな時間が積み重なっていると実感しているところです。『所属をする』ということに、意欲を高めてくださる方もいます。ご本人、ご家族の大切な一瞬の中に混ぜていただけることが、私の贅沢な趣味であり、学びの場です。



訪問療育いるか

事業主体	NPO法人かすみ草 理事長 早野節子 多機能型放課後等デイサービス くじら 居宅訪問型児童発達支援 いるか
連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉 3-22-15 グランヴェール和泉 101 TEL 03-6265-7993 Fax 03-6265-7992 e-mail:kujira@kasumiso.tokyo Hp:www.npo-kasumiso.com
事業紹介	いるかは、重い障害を持ち常に医療的ケアが必要なため、地域の通園に通うことができない幼児たちへ「療育の出前」を行うことを目的とし、2011年12月にスタートしました。2018年9月には居宅訪問型児童発達支援の指定を受けました。制度面で居訪児が使えない方には従来どおりヘルパー派遣の形での訪問を行っています。 発足時、成人への訪問依頼が多々ありました。通所になかなか行けない人、集団でなく個人のペースで活動したい人などから要望があり、スタッフの状況に合わせて現在までに5人の訪問を行いました。1名は通所施設に週2回通えるようになり卒業しました。 現在、入学前の幼児13名、成人2名の訪問を行っています。回数は月1回～週1回、1回1時間～2時間です。学習支援員は元特別支援学校の教員だった者が多く、障害の重い方のそれぞれに応じた学習活動を行っています。
活動の様子	 歌に合わせて絵を見たり、楽器を鳴らして楽しんだりします。この日は秋の虫の声をきいたり、秋の木の実の模型に触れたり、いろいろな秋を感じました。  音楽を楽しみ、学習活動で歌の作曲をして、コンサートも開きました。 一人一人の興味関心に応じた活動を行っています。

みなさんからのメッセージ

学生の声	成人の学生さんから  わー、でっかいきのこ。 リズムカルな歌が 好きだな ♪ 幼児さんから  バースデイカード うれしいな！！ 季節のとりくみや 行事など、興味を持って 楽しんでいます。
ご家族の声	体調の変化がある中でも、娘なりに興味のあること無いことに目を開けたり瞬きしたりして伝えています。いるかでは楽しい遊びがたくさんで、お陰で娘の好きなことがよくわかるようになりました。制度化されたとはいえ、まだやってくれる事業所は少なく、今後もっと増えていくことで利用の選択肢も広がっていくことを願っています。（幼児保護者） いるかを知って月に 1 回 2 時間の訪問を受けています。通所とはまた一味違い、個別にじっくりと関わってもらっています。大好きな音楽やお話、絵を見たり実物に触れたりして楽しい時間を過ごしています。この活動を通して息子の新たな側面を発見したりしています。この活動がこの先もずっと続けられることを願っています。（成人ご家族）
学習支援員 の声	訪問の日は朝からウキウキ。ウクレレで「いるかソング」を弾き、発声練習して出かけます。お子さんに合った抱っこの仕方や関わり方を研究しながら少しずつお子さんとの距離が縮まっていく日々がとても楽しいです。体調が安定して通所が順調にできるようになったり、学校に入学するといるか卒業です。笑顔で次のステップに進めるよう、通所先や学校との引き継ぎも大事な役目と感じています。（幼児学習支援員 峯尾康子） 月に 1 度の訪問を、ご本人もお母様も楽しみになさっています。今はなかなか外出もできない中、季節の話題や行事などを絵や画像、音を通して実感しています。ご家族にとって、お子様が幾つになっても楽しい時間を過ごし、その中で新しい顔を見せてくれたりすることは嬉しいことです。いつも学生さんの心の中を想像しながら計画を立てています。それは私の興味を広げることに繋がります。学生さんにご家族の笑顔にこちらも支えられて、一緒になって夢の実現を求めていきたいと思います。（成人学習支援員 岡田あつ子）

訪問カレッジ Enjoy かながわ

事業主体	NP0 法人フュージョンコムかながわ・県肢体不自由児協会 理事長：成田裕子
連絡先	事務所：〒221-0844 神奈川県横浜市神奈川区沢渡 4-2 神奈川県社会福祉会館内 電話：045-311-8742 F A X：045-324-8985 Email：jimukyoku@kenshikyou.jp HP：http://kenshikyou.jp
事業紹介	NP0 法人フュージョンコムかながわの事業には ①社会参加事業：空の旅、配慮食食事会、当事者会、ミュージカル観劇等 ②研修事業：喀痰吸引等研修、摂食研修、意思伝達支援勉強会 ③親の会の支援 があります。更に 2019 年 4 月から「生涯教育の訪問サービス事業」を開始しました。特別支援学校高等部訪問教育部門卒業生の卒後の学び場の確保の願いに応えようと、学生 2 名（病院 1、在宅 1）で始めました。原則として神奈川県に住み、障害や病気のために通所施設等の毎日の利用が難しい方で、学習支援員の派遣を希望している方を対象にしています。 訪問期間は 4 月～3 月の単年度で、訪問回数は月 1～4 回（週 1 回）2 時間。学生 1 名に 2～3 名の支援員チームをつくり、複数での訪問も実施しています。
活動の様子	学 生：それぞれの学びのテーマを探す 保護者：時には参加して家族も一緒に学び、子どもの学びに満たされる。 支援員：担当者にとっても生涯学習になっている 

みなさんからのメッセージ

学生の声	<活動の様子 その①> 初対面の先生に、得意のビーズ通しホース入れを披露しました。褒められてニヤリ◎ 今日一番頑張ったのは「貯金」です。財布からお金を出して貯金箱に入れます。貯金箱の音が面白くて何度も振ってみて、全部入れた後、なんと「もう1回！」飽きずに・・・ <活動の様子 その②> 大きく目を見開いて、口を動かしたりまばたきしたり、コミュニケーションもバッチリ。 今日はマッサージの後、ハンドミシンを使ってマスクを作りました。スイッチを右人差し指で押して音と振動を感じて目をさらに大きくして、右から左に瞳をじーっと動かしていました。苦勞して(?)完成したマスクはPTの先生にプレゼントする予定です。 ハンドミシンの次の作品は、お母さんからのオフアアがあって、ティッシュケース。うーん、Iさん頑張るしかありません。 <活動の様子 その③> 眠気から覚めたとのことでバッチリ挨拶や語りかけに大きな目を動かしたり、瞬きて応えてくれました。手のマッサージ、読書（おおきな木）、音楽鑑賞（いのちの理由）、美術（うちわ作り）、農業（豆苗の成長）、母とヘルパーさんを交えて談笑。表情がキラキラしていました。 （訪問カレッジエンジョイかながわ）
ご家族の声	<ご家族の声 その①> 大学生の妹さんもリビングで勉強しており、時々会話に参加したり、実験の手伝いをしてくれました。 <ご家族の声 その②> 先生方がずっと思い続けて上を見上げて、少しずつ形にしてきたことが、評価されて本当に嬉しいです。進路なんて考える余裕もなかったのに、訪問カレッジに繋がってもらって、どれだけ環境が変わったことか。入院中ですが、新人看護師などは、本人がコミュニケーションが取れるのだと、授業を通して再確認したらしく、声をかけてくれるようになりました。 気持ちを閉じこめたり、押しつけられることなく人として尊重される雰囲気が広がったように思います。
学習支援員の声	母の声を受けて支援員の私たちも、共に学んで、生きていと感じます。みんなは、私たちの仲間であり、先生です。 当事者の思いから始まった主体性、当事者性が評価され、神奈川県助成金「かながわボランティア活動推進基金21」への採択が決定しました。選考結果には、「本事業が目指す、医療、介護に次ぐ生涯学習という新しい視点を社会に発信する方法や、スタッフの募集や教育について計画的に進めていただき、全国へ波及するようなモデルづくりをめざしていただきたい」とエールをいただきました。

日野市障害者訪問学級

事業主体	日野市障害者問題を考える会（日野市生涯学習課より委託事業）
連絡先	日野市障害者問題を考える会会長 名取潮子 電話・fax (042-592-1517) 191-0042 日野市程久保 3-10-27 Email: shioko.natori@gmail.com
事業紹介	日野市に在住する特別支援学校を卒業した人で、卒後も学習を希望する人が1年間70時間程度の授業を受けられます。始まりは市立中学校訪問学級の卒業生が卒後の学習保障をという強い願いとそれを支える教員とで市に要望して実施されるようになり、今年で39年です。 肢体不自由の方と知的障害と発達障害を併せ持った重度の方も含み、週1回から月に1回、内容は外出支援、美術・工作、国語学習、プール、コミュニケーションなど多岐にわたります。近年、医療的ケアを必要とされる方が増えてきて、内容的にも変化してきています。講師は市民が講師募集養成講座を受講して参加。また特別支援学校退職者も三分の一、他職種の福祉関係の方も三分の一程度です。運営は保護者も含む運営委員会が中心となり会員相互の協力で行っています。
活動の様子	全体の行事としては、遠足、音楽交流会、体育交流会、特別支援学校開放プールに参加、一泊の移動教室などの学級生相互交流も実施しています。右の写真は、日野市の大成荘を利用しての一泊移動教室で、河口湖オルゴール館に行ったときの様子です。生の演奏や歌声に触れて、心躍る体験ができました。 また秋の遠足では、府中郷土の森博物館公園に行きました。（下の写真） 日野市障害者訪問学級 河口湖オルゴールの森とほうとう体験 2018年9月1日 修了証書授与 個別の学習の様子は、かなり多岐にわたっています。スイッチを利用して音楽を楽しんだり、絵カードやシンボルシール貼りで予定を確認したりしている人もいます。3月には市の生涯学習課の方と代表の名取先生が、各ご家庭を訪問して、その年度の修了証書を渡しています。また各担当講師から、一年間の学習の成果を記録した「あゆみ」を渡し、頑張ったことを学級生と共に実感する時間です。

みなさんからのメッセージ

学生の声



(この笑顔) 遠足はいいなあ

書道やる？

(口をもごもご) はい
やります！楽しい



ご家族の声

休日はどうしてもリズムが崩れやすくなってしまい、昼間に眠ってしまったり、早朝4時に起きてしまったりすることもありがちですが、土日のどちらかに訪問学級があると、リズムがとれてイライラすることなく穏やかに過ごせています。身体の緊張を緩める学習や歌やスイッチ学習で好きな音楽を選曲しています。またお天気がよい時には外出を楽しんでいます。気分転換ができることで、次の週も元気に通所ができています。娘は親だとやらない我が儘な面がありますが、先生がくると気持ちが切り替わって、活動を楽しんでいます。親も少し離れた気持ちになって休まります。訪問学級のように親以外の人との関わりは、これからも大切だと感じています。

(保護者 山梨恵美)

講師の声

学級生の方が興味を持って取り組める活動を考えるため、いろいろな本を読んだり教材を作成したり、準備段階から私自身も楽しく活動しています。授業本番で思ったように興味を持ってくれることもあればそうでないことも。でも一回でも一瞬でも「ニコッ！」「ニヤ！？」の笑顔、一言でも「面白い～」のつぶやきをひき出すことができれば、それが一番の喜びです。

(訪問学級講師 加藤恵)



在宅訪問学習支援事業「SHJ 学びサポート」

事業主体	認定 NPO 法人スマイリングホスピタルジャパン 代表理事：松本恵里
連絡先	在宅訪問学習支援事業「SHJ 学びサポート」 コーディネーター：松本健太郎 住所：〒168-0072 東京都杉並区高井戸東 3-3-15-308 電話：080-3097-6646 Email: piyolinhn@smilinghpj.org SHJHP: http://smilinghpj.org/ SHJ 学びサポート HP: https://shjmanabisupport.org/wp-manabi/
事業紹介	2018年4月に、東京都立永福学園肢体不自由教育部門高等部卒業生2名、学習支援ボランティア1名によりスタートしました。個別的でゆったりとした学び合いの実現を目指しています。2020年9月現在、学習支援員を6名に増やし対象者を9名に拡大しました。 ■目的 医療的ケアや重い障がいのために在宅医療を受ける子どもへの学習の機会と質を補うこと ■学習内容 ・基礎学習：教科学習の土台となるもの。探索・操作、手段-目的、弁別、構成学習など。 ・意思伝達支援：状況把握や受信・発信手段の確保を支援する。 ・教科学習：一人一人の興味や関心にあった教科の学習を提供する。算数、国語、情報など。 ・芸術：美術、音楽 ■大切にしていること ・学び合うこと ・一人一人の困難さに寄り添うこと ・豊富な教材を用意すること ■事業形態 ・一人につき月一回 ・1回2時間程度 ・学習支援ボランティア1名が訪問 詳しくはホームページをご覧ください（「SHJ学びサポート」で検索）
活動の様子	■手作り教材による基礎学習  ■支援機器の活用  ■音楽  ■美術   

みなさんからのメッセージ

利用者の声	■「学びサポート」のユニバーサル算数セットは、厚みがあるので手のひらで掴む事ができる！大きいので視覚にも入りやすい！重さもあるから身体で感じる事ができるのかも！と、改めて「学びサポート」の教材の凄さを実感しました。 今は、一緒にプリントを楽しめる喜びを感じています。子どもの出来る楽しいの気持ちは親も同じでした。親子で「学びサポート」を楽しみにしています。「学びサポート」の教材で、息子が自分の可能性にもっともっと挑戦してってくれることを願っております。 (Oさんのお母様) ■毎回先生は楽しそうに「新しい教材を作ったよ！」と車いすに教材を詰め込んでいらっしゃいます。脳性麻痺で不随意運動や筋緊張が強く手先の作業が苦手な息子です。基礎学習では見たことも触ったこともない教材がたくさん。はじめの頃は嫌々も目立ちましたが、今では難なく使いこなし、次は？と言わんばかり、次々と教材に取り組んでいます。数の学習では、前半充分に基礎学習を行ってから後半、丁寧に数の学習が始まります。木製のブロックを使い目と手と耳と頭を使い学習します。こちらからはじめの頃は時間がかかり、集中力も途切れ飽きてしまう事も多かったけれど、今では与えられた問題に集中し、わからない事には「わからない」と発言できるようになりました。我が家では必ずヘルパーさんも一緒に学習時間に同席してもらいます。1週間、複数のヘルパーさんがローテーションで入っており、誰でも自宅学習が同様にできるようにしてもらっています。親だけでは、毎日の学習を継続する事が難しくヘルパーさんの協力は必要不可欠です。学校ではなかなか学べない大切な学習(ホントは学校で学ぶべき事)が定期的に自宅で行える事は何より大事な時間です。我が家には健常な子もいます。健常な子たちは当たり前のように学校で授業を受け、足りないものは塾に通い、その間に友だちと遊び、たくさん学べ、不自由なく生活できます。選択肢もたくさんあり人生でつまづく事があってもやり直しもできます。目に見えにくい成長は親にとってはつい諦めてしまいますが、一年後、二年後に振り返てみると、頑張ってきて良かったねときっと成長を喜ぶ事ができると思います。「学びサポート」の活動がもっと広がって、不自由な生活を余儀なくしている子どもたちに学びの大切な時間が増えていくと良いなあと思います。 (Kさんのお母様)
学習支援員の声	■身体が自由に動かせなかったり言葉がうまく発せなくても、たった一つの和音でこんなに多くの事を伝えられるという発見は、私にとっても貴重な経験でした。改めて音楽の懐の深さに感謝です。これからも、彼らが自信を深め、好奇心を広げていけるようサポート出来たらと思っています。 (学習支援員I.K.) ■「SHJ学びサポート」が目指す「学び」とは、なりたい自分になるため自主的に学ぶ事だと思います。基礎学習以外にも、いろいろな「学び」の可能性を秘めています。「SHJ学びサポート」は、障がいをお持ちのお子さんの「学び」を支援するシステムです。まだまだ、か弱い存在ですが、いつか全国に広がるように共に努力していくつもりです。 (学習支援員Y.S.)



みんなの大学校

-学び、で君が花開く-

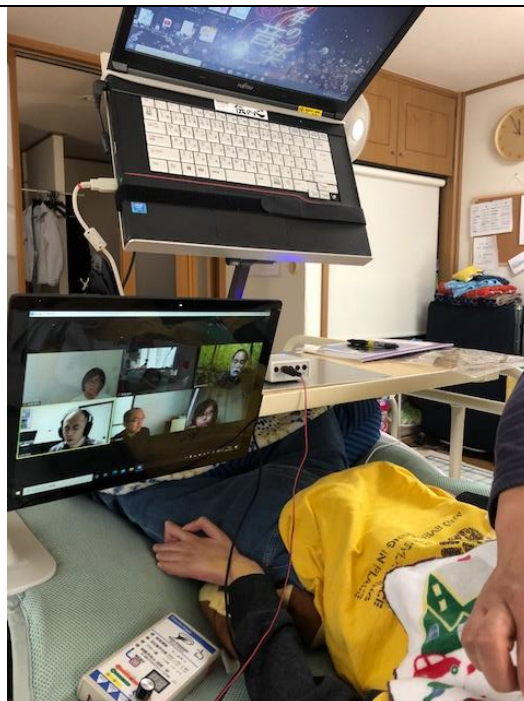
事業主体	一般社団法人みんなの大学校 代表理事 引地達也
連絡先	〒182-0011 東京都国分寺市本多 2-1-4 (本部) 〒663-8173 兵庫県西宮市宮前町 1-2 (西宮校) 電話: 070-3166-1616 Email: info@minnano-college-of-liberalarts.net HP: http://www.minnano-college-of-liberalarts.net
事業紹介	2018年にスタートした支援が必要な方への学びの場「シャローム大学校」を前身に、新型コロナウイルス禍を受けてウェブでどこでもつながる学びの場として「みんなの大学校」に移行した。ウェブ型、通学型、訪問型の学生に対応し事業所単位での学習にも対応する。福祉サービスは使わない任意の大学校として、高等教育を教える講師が講義を担当するのを基本とする。地域の訪問看護と連携して学習のニーズに応える形態等、生活のスタイルに合わせる学びも模索し実践している。ウェブ型では毎日の講義に参加できることで生活のリズムに合わせて、ほかの学生と一緒に学ぶことも可能としている。
活動の様子	東京都の岩村和斗さんは昨年入学し今年2年目。前期15回の講義とレクレーション学習、後期15回の学習とレクレーション学習で単位を取得し「修了」に向けて学びを進めている。写真は2020年後期のレクレーションとして埼玉県和光市の「五輪イベント」で「五輪輪投げ」に挑戦した様子。 埼玉県川越市の松本勇成さんは体調に合わせながらの学習を行う。同市内の訪問看護事業のNPO法人ぽぷりと連携し、元特別支援学校教諭のヘルパーと保護者と一緒にあって対話をしながら学びを進める。時にはリモートでみんなの大学校の講義にも参加する。

みなさんからのメッセージ

学生の声

みんなの大学校では通学型にもウェブ型にも対応しており、訪問型の重度障がいの学生もウェブ型の授業に参加できる仕組みになっている。岩村和斗さんは2020年度後期から正規科目である

「発達心理学」に挑戦している。同講義を担当するのは発達支援研究所所長で元早稲田大教授の山本登志哉先生で、発達の歴史の講義では様々な動物が登場し、山本先生への最後の質問で岩村さんは「先生の好きな動物は何ですか?」「先生の好きな虫は何ですか?」と先生の興味に関心がありそうな様子だった。「先生の好きな鳥は何ですか?」との質問に山本先生は「好きな鳥は焼き鳥で、嫌いなのは借金取りです」と返答した。また画面を通じて一緒に学んでいたほかの学生とはレクレーションで初めて顔を合わせて、あいさつを交わし合った。



ご家族の声

松本勇成さんの母親の話

これまで学習の機会を求めていたがどこも対応がなかったところに、「みんなの大学校」の存在と、ヘルパーがもともと支援学校で担当してくださった方であるという2つの偶然が重なってこのような機会を得ました。息子が「大学生」になるなんて、今まで考えもしなかったですが、ゆっくりと私も一緒に学んでいきたいです（談）

学習支援員の声

引地達也学長

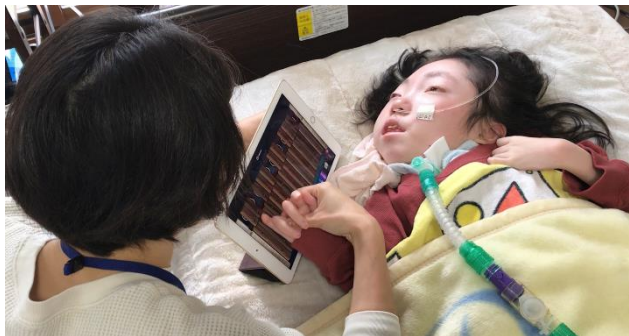
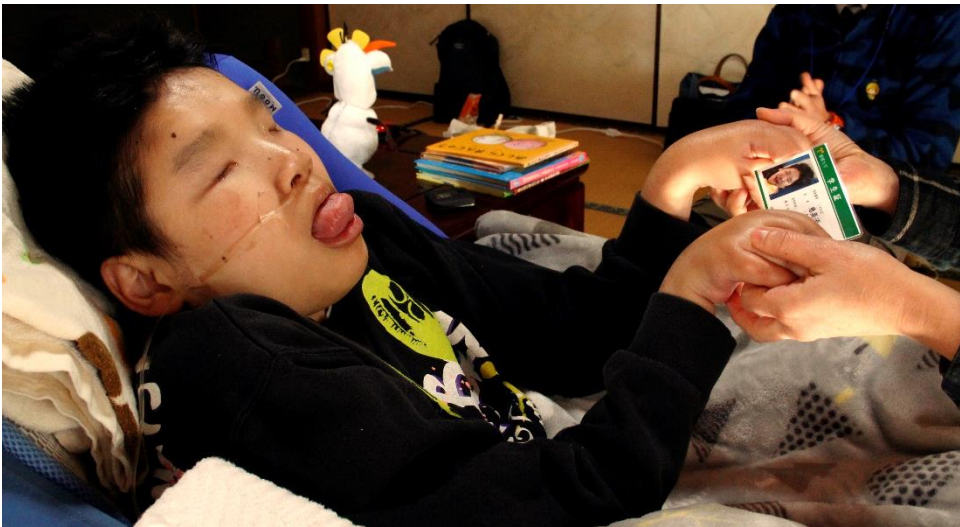
みんなの大学校は訪問での講義だけではなく、ウェブで行っている講義のサポートも含めて



て学びの可能性を広げていきたいと考えている。広げるためにはネットワークの構築と当事者のニーズをキャッチできるようにすること。さらにニーズをキャッチするだけではなく、学習を実現するには「教える人」も必要で、今後も教える側の創出も考えながら、「みんな」が学べる仕組みづくりをやっていく。

右の写真は2019年度入学式

ほうもんかれっじ おーぶんかれっじ あっとえひめだいがく 訪問カレッジ・オープンカレッジ @ 愛媛大学

事業主体	国立大学法人 愛媛大学
連絡先	教育学部 苅田知則研究室 事務局（担当：村上） 〒790-8577 愛媛県松山市文京町3 電話・FAX：089-927-9517 Email：houmon.college@ed.ehime-u.ac.jp HP： https://karilab.jp/syogai_gakusyu/
事業紹介	愛媛大学では、令和元年度・2年度に文部科学省から「障害者の多様な学習活動を総合的に支援するための実践研究事業」を受託し、「訪問カレッジ・オープンカレッジ@（あっと）愛媛大学」の取組を始めました。 「訪問カレッジ」とは、自宅や病院等、利用者の安心できる場所で実施する個別の学習機会であり、「オープンカレッジ」とは、訪問カレッジ利用者が、他の利用者と学習内容を共有する集団の学習機会です。学校卒業後の重度重複障害の方の内、学習機会が無い、または少ない方を対象に、自宅や病院等毎月1回～週1回程度、訪問スタッフを派遣する事業です。詳細は、ホームページの「訪問カレッジ」をご参照ください。
活動の様子	■訪問による学習の様子   スイッチを使った活動の様子 iPad アプリを使った活動の様子 ■「訪問カレッジ・オープンカレッジ@愛媛大学」学生証授与の様子 

みなさんからのメッセージ

1年で1番寒さを感じる2月、第1回目の訪問カレッジの授業が始まりました。

『大ちゃんの好きなお歌は何か?』優しく先生が聞いてくれます。

『大地はAKBが好きみたいです。』私は決して聞かせた事はありませんが(妙な自信(^_^;;))、通っている園での反応が良いらしい。確かに、若い女の子の声が好き。先生はAKBの歌をネットから取り出して、聞かせてくれました。

申し遅れましたが、次男大地は当年にとって25才の若者です。全盲、肢体不自由、嚥下障害(鼻腔からの経管栄養)といった、重度の障害を持っています。この日も嚥下が少々困難で、痰を絡ませながらの授業だったと記憶しております。

先生方は、痰の出やすい姿勢を度々として、『ゼコゼコ』が治まるまでゆっくりと待つて、落ち着いたところで音楽遊びを再開して下さいました。大地も、初めての授業だったのにゆったりと楽しむ事が出来ました。
(保護者 恵美須 真紀さん)



ご家族の声

支援学校を卒業して、施設の生活介護に通所し、毎日を過ごしている26才の娘です。自己意思が強くて、施設に行くのも嬉しそうな時や、つまらなそうな時、はっきり態度に出してしまう程です。日々、何か娘に出来る事が増えると良いなあと思ってました。

『訪問カレッジ』の情報を頂き、是非参加させたいとお願いしました。娘に伝えても余り関心がない様子でしたが、いよいよ先生方と初対面の時には、「何?、何なん?、誰?」と見るからに緊張した面持ちでした。時間が経つに連れて娘の表情も和らぎ、笑顔に変わっていきました。

幼い頃から色々経験してきたスイッチの登場には、おもちゃを繰り返し動かしゲラゲラ笑ったり、ミシンを動かして試し縫いをしたり、体全身を使って楽しんでました。

こんな表情もあったなあと、とても懐かしい気持ちに胸が熱くなりました。せっかく持つてる娘の色々な表現の有り方を『訪問カレッジ』を通して抜けていきたいと思います。

これからも宜しくお願いします。

(保護者 服部 克美さん)



学習支援員の声

表情、手指、呼吸など身体全体で意思を伝えていらっしゃるの、その方の伝え方を知ろうと心がけています。ご家族の方が協力的であたたかい雰囲気がとても心地よく、わたしが癒されています。一緒に生涯学習や余暇活動を行なっていく中で、新しい発見もあり、充実した時間となっています。
(学習支援員 小嶋 仁美)

■ 重度障害者に対する訪問型生涯学習に取り組む団体一覧（令和2年9月9日現在）

	事業名	事業者名	法人等の 代表者名	事業代表 ・連絡先	事務局所在地
①	訪問カレッジ@希林館	NPO法人地域ケアさぽーと研究所	飯野 順子	下川 和洋	東京都 ・小平市
②	訪問大学おおきなき	NPO法人訪問大学 おおきなき	相澤 純一		東京都 ・大田区
③	ひまわりHome College	NPO法人ひまわりProject Team	藤原 千里	寺崎有仁子	東京都 ・新宿区
④	訪問事業 i.porte(あいぽると)	NPO法人あいけあ	岡安 玲		神奈川県 ・川崎市
⑤	訪問療育いるか	NPO法人かすみ草	早野 節子	栗山 弘子	東京都 ・杉並区
⑥	訪問カレッジ Enjoyかながわ	NPO法人フュージョンコ ムかながわ・県肢体不自 由児協会	成田 裕子		神奈川県 ・横浜市
⑦	訪問カレッジ静岡	静岡県障害者就労研究会	瀬戸脇 正勝		静岡県 ・静岡市
⑧	日野市障害者訪問学級	日野市障害者問題を 考える会	名取 潮子	大石 恒子	東京都 ・日野市
⑨	在宅訪問学習支援事業 「SHJ学びサポート」	認定NPO法人スマイリン グホスピタルジャパン	松本 恵里	松本 健太郎	東京都 ・杉並区
⑩	みんなの大学校	一般社団法人 みんなの大学校	引地 達也		東京都 ・国分寺市
⑪	訪問カレッジ・オーブ ンカレッジ@愛媛大学	国立大学法人 愛媛大学	大橋 裕一	荻田 知則	愛媛県 ・松山市

■ スタッフ募集（講師・学習支援員）



これまでの福祉や教育現場で培ったスキルを、重い障害のある
方々の学びの支援に活かしてみませんか！

ご関心ある方は、各団体へお問い合わせください。

